

# 「相互依存関係」概念に関する考察

矢澤 信雄

## 【要 旨】

グローバル化の進展に伴い「相互依存関係」に注目した研究が政治経済学分野を中心として活発に行われている。本稿ではこの概念について考察し、相互依存関係という概念が様々な学問領域に適用可能であることから、諸学問分野においてこの概念を用いて設定可能な問題とは何かを明らかにしようとする。

## 【キーワード】

相互依存関係, 問題設定, 競争, グローバル化

## I. はじめに

国際関係の複雑さの度合いは増大し続けている。1970年代に入って国家間の相互依存(interdependence)<sup>(1)</sup>という概念が提唱され、国際関係の複雑化による相互依存関係の度合いの増大は長期的には国際紛争を減少させるものであるとの主張がなされてきた(Keohane, Nye 1973)。1980年代以降、相互依存関係の研究はグローバル化の進展と並行して継続的に発展し続けている。<sup>(2)</sup> 相互依存関係について、これまで最も活発に研究が行われた分野は国際貿易である。

研究にはまず、問題を設定し、次に問題を解決するといったプロセスが存在する。本研究ノートの目的は、「相互依存関係」という概念について考察し、この概念から設定可能な問題とは何かを明らかにすることである。

## II. 問題設定の際の問題意識

研究者が問題設定を行う際には、その行為はある種の問題意識からなされることが多い。その問題意識は、しばしば本人が意識していないことも多いが、その研究者の価値観と結びついていることが多い。

相互依存関係について問題設定をする際に、自然に浮かぶ疑問として、「相互依存関係があることは良いことなのだろうか」というものがある。相互依存関係のもたらす負の影響を重視する研究者は、相互依存よりも、互いに拘束されない自由な独立状態の方が良いのではないかという問題意識を持つかもしれない。例えば、政治経済学の領域でこういった問題意識から問題設定を行う場合、「相互的(互惠的)なものであるとはいえ、国家間に依存状態があるということは安全保障上好ましくない」という仮説を検証しようとするであろう。

### Ⅲ. 2つの概念への分解

相互依存関係の概念は相互性と依存性という2つの概念に分解できる(図表1)。

場合	相互性の存在	依存性の存在
(1)	○	×
(2)	×	○
(3)	×	×

図表1 相互依存関係が不在な場合 出典 著者作成

#### (1) の場合

両者の間に相互性は存在するが、依存性は存在しない、という状態は論理的には一つの言明として可能であるが、それに対応する現実の状態は想像できない。したがって、この場合に関する考察は、ここで終える。

#### (2) の場合

両者の間に依存性は存在するが、相互性は存在しない。この場合の両者の関係を描写する用語としては、次のものが考えられる。

- ☆ (一方的) 依存関係
- ☆ 支配・従属関係
- ☆ ホスト・パラサイト関係

#### (3) の場合

両者の間に依存性も相互性も存在しない。この場合は、両者は独立していて、かつ自律的であると考えられる。

### Ⅳ. 様々な学問分野における問題設定の可能性の検討

相互依存関係という概念は様々な学問領域に適用可能である。そこで、相互依存関係と組み合わせることによって有意義な問題設定がなされるキーワードとなる用語を図表2に示す。

学問分野	キーワード
数学・哲学	部分と全体, ネットワーク
生物学・生態学	生存競争, 棲み分け, 共進化
心理学・社会学	育児, 加齢, 連帯, 協力, 従属, 支配
政治学	敵対, 自律, 独立, 従属, 支配, 同盟
経済学	分業, 競争原理
経営学	価値連鎖, 競争戦略, 三方よし

図表2 諸学問分野におけるキーワード

出典 筆者作成

## 1. 部分と全体

例えば、全体のある部分 A と全体の間には相互依存関係が存在すると見ることができる。この場合、全体の最適化と部分 A の最適化のどちらが優先するか（あるいは重要か）という問題を設定することができる。部分と全体の関係は個人と社会の関係と読み替えることもできる。

## 2. ネットワーク

複数のアクター間の関係はネットワークで表現することができる。従って、相互依存関係はどのようなネットワークで表現できるかというのは重要な問題であり、例えばグラフ理論を適用することにより、研究を行うことができる。複数のアクター間の結びつき方がどのようになっているかというネットワークの研究は近年非常に活発化している。しかし、アクター間の結びつきに強弱があることを考慮した研究はまだほとんど無いので、ネットワーク理論による相互依存関係の研究は今後の発展が期待される。

## 3. 生存競争, 棲み分け, 共進化

19 世紀以降、進化論は多くの学問分野に影響を与えた。進化論においては、種や個体の間には限られた資源を巡る競争関係が存在するという見方が研究の前提となる傾向がある。しかしながら 20 世紀に入って種や個体間を競争関係ではなく、共存のために棲み分けをする関係であると捉える視点からの研究が始まった。さらには、Darwin がすでに指摘してはいたが、20 世紀前半まではそれほど注目されることになかった共進化 (coevolution) の概念が注目を浴びている (Darwin 1859)。

## 4. 育児, 加齢

人間の家族を対象として相互依存関係の視点から構成メンバー間を研究することは有意義であると考えられる。吉松によれば、家族には 6 ステージのライフサイクルがある (吉松 (2015))<sup>(3)</sup>。その各時期における家族のメンバー間における相互依存関係の分析や家族の加齢に伴う相互依存関係の変化を調べることは有意義であると考えられる。また、夫婦間の相互依存関係と夫の所得、妻の所得などとの関係について実証研究を行うことも興味深いと考えられる。

## 5. 連帯, 協力, 従属, 支配

人間関係には相互依存関係のみではなく、様々な関係が存在する。例えば、連帯・協力関係、従属・支配関係といった関係が存在する。これらの関係と相互依存は具体的に共存可能なのか、あるいはトレードオフの関係にあるのかといった関係性を研究することは有意義であると考えられる。

## 6. 敵対, 自律, 独立, 従属, 支配, 同盟

国家間にも相互依存関係のみではなく、様々な関係が存在する。例えば、同盟関係、敵対関係、従属・支配関係といった関係が存在する。これらの関係と相互依存は具体的に共存可能なのか、あるいはトレードオフの関係にあるのかといった関係性を研究することは有意義であると考えられる。

さらには、国家の独立状態や自律性が他国との相互依存関係の深化により損なわれる可能性を分析することは、一国の外交政策形成のためには不可欠の研究テーマであると考えられる。

## 7. 分業, 競争原理

Adam Smith (1776) は分業の価値を高く評価した。それと同時に政府に介入されない市場における自由な競争状態を維持することの重要性を強調した。Smith 以後, この(市場)競争原理の思想は様々な分野に拡がっていく。ここで, 分業の概念は相互依存関係と基本的に親和的である。しかしながら, 競争原理は相互依存関係とは簡単には結びつかない。この点に問題を設定して研究を行うことは有意義であると考ええる。

## 8. 価値連鎖, 競争戦略, 三方よし

経営学では企業は競争状態にあることは自明の前提とされることが多い。現在, 経営学の用語には戦略(strategy)や戦術(tactics)など戦争を想起させるような軍事用語が多数用いられている。しかし, 1960年以前には「戦略」という言葉は, 基本的に戦争と政治の世界の用語であり, ビジネス用語とは見做されていなかった(Walter (2010))。戦略という言葉を経営学に持ち込んだのは, 主にアメリカの研究者によってである。日本の企業でも「全社員一丸となって」「企業戦士」といったフレーズが日常的に用いられている。そういう点からは相互依存関係の視点が最も欠落している研究分野であると言える。

グローバル化に伴い価値連鎖が世界に展開するようになってきている。例えば, 日本の紙・パルプメーカーでは木材を森林から切り出し, それをチップにし, チップを原料としてパルプを生産し, パルプを原料として製紙を行う。そして, 紙を流通ルートにのせ, 最終的に消費者に販売するという流れになっている。ここで, 森林(木材業者), チップ製造工場, パルプ製造工場, 製紙工場, 販売店は地理的に世界中に分散していることが多い。また, 木材業者, チップ製造業者, パルプ製造業者, 製紙業者, 販売業者は流れの中で繋がっている。従って, 流れの中で繋がっている企業間の関係を競争関係としてのみ捉えるのは極めて不適切である。価値連鎖の中にある企業間にはある種の相互依存関係が存在することは否定し難い。従って, 価値連鎖の中にある企業間の相互依存関係を研究することは有意義なことであると考ええる。

また, Smith 以後の市場がしばしば過当競争状態に陥った過去の反省を踏まえ, 江戸時代の近江商人の行動哲学をルーツとする「三方よし」<sup>(4)</sup>の考えが近年注目されている(三方よし研究所HP)。この「三方よし」の思想を相互依存関係の視点から研究することは有意義であると考ええる。

## V. 相互依存関係の定量化可能性の検討

相互依存関係を用いて設定した問題について研究をする場合, もしも相互依存関係を定量化することに成功すれば, それは意義の大きい達成であると言える。しかしながら, 定量化された指標は, あくまで相互依存という関係全体のある側面を切り取って他の部分は捨象したものにすぎないということを意識して研究を進める必要がある。その意識を無くすと, 例えば論文のインパクトファクターのように数字が一人歩きしてしまう悲劇を招いてしまうことになる。現時点において, 政治経済学の分野で多国間の相互依存関係を定量化する試みがなされているが, 未だ適切な指標は考案されていない。

以下では, 2者間の相互依存関係を定量化する際に注意する必要がある点を考察する。まず, 相互依存関係をⅢ章で行ったように2つの概念に分解してそれぞれについて考察する。

## 1. 依存性概念の定量化可能性の検討

依存関係については依存の度合いが大きい小さいかがメトリックスとして考えられる。依存の度合いを定量化するには、一方が他方に依存できない状況になった場合に生じる変化の大きさを定量化することになる。例えば、A国とB国の間の2国間貿易における依存関係であれば、A国からB国への貿易が途絶えた場合にB国が被るダメージの大きさを評価することによりB国のA国に対する依存度を計測することが可能になる。

## 2. 相互性概念の定量化可能性の検討

相互関係については相互の関係が対等であるかがメトリックスとして考えられる。相互の関係が対等でなくなったとき、関係性は一方に傾き相互依存関係という文脈での相互性は消失する。例えば、上述のA国とB国の間の2国間貿易における相互関係であれば、A国からB国への貿易は存在するがB国からA国への貿易は全く無い場合、相互性が全くないA国からB国への一方的関係ということになる。同様にB国からA国への一方的関係の場合が考えられる。この2つの状態を2極として、B国からA国への貿易量とA国からB国への貿易量がちょうど等しい状態がA国とB国が完全に対等の状態、つまり最も相互関係の度合いが高い状態と見なすことができる。

## VI. おわりに

以上、「相互依存関係」概念を用いて多くの学問分野で研究テーマが設定可能であることが示された。著者以外にも多くの研究者がこれらの課題に取り組まれることを望みたい。

### 【注】

- (1) interdependence という語が最初に英語で使用されたのは1817年である(Merriam-Webster Dictionaryより)。
- (2) 相互依存関係について、これまで最も活発に研究が行われた分野は政治経済学であり、その中でも特に国際貿易である。これはグローバル化の進展を計測する重要な手掛かりにもなる。さらに、産業連関表を用いた研究も盛んである。同時に、安全保障の観点からの研究も活発である。また、今後は新型コロナウイルスの流行に伴い、各国中央銀行が証券市場への積極的介入を実施しており、パンデミック収束後は金融面での相互依存関係研究の重要性が増大すると考える。
- (3) 吉松(2015)によれば、家族のライフサイクルには、①どの家庭にも属さない、ヤングアダルト(家族から分離して自己を確立する)、②結婚による家族の誕生(夫婦関係を形成)、③幼い子供を持った家族(子供のために夫婦は心理的・物理的空間を形成)、④思春期の子供を持った家族(子供らが家庭の内外を自由に出入りすることを受容)、⑤子供たちの脱出と出立(夫婦関係の再構築)、⑥人生の晩年を送る家族(社会的・肉体的衰退に対応した夫婦関係の変化、最後に配偶者の死別への適応)の6つの段階がある。
- (4) 三方よしとは商いの際に「売り手よし、買い手よし、世間よし」を理想とする考えである。つまり、取引の際には売り手は自己の利益最大化を至上目的とするのではなく、買い手の満足度や社会に及ぼす影響も考慮した上で行動すべきであるという考えである(三方よし研究所HP)。

**【参考文献・引用文献】**

三方よし研究所 HP 2021 年 1 月 21 日閲覧

吉松和哉 (2015) 『精神看護学 1 精神保健学』 ヌーヴェルヒロカワ

Keohane, Robert O.; Nye, Joseph S. (July 1973). Power and interdependence, *Survival*. 15 (4): 158-165.

Kiechel, Walter (2010) *The Lords of Strategy*, Harvard Business Press

Smith, Adam (1776) *An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations*